



つい最近、悲しい知らせが届きました。それは何回か我が家にもお泊りしたこともあるお友達のA君が、原因不明の病気で亡くなった知らせ

でした。A君は男子であり、私より7歳も年下なので一緒に遊んだりしたことはなかったのですが、ジャックラッセルテリア特有の動きの良さで、仲間内では人気No.1を争うナイスガイでした。

そんなこともあり、昨日の夢の中で私もいつの間にか雲の中にフワフワ浮いていて、ここは天国なのか浄土なのか、どこからともなく「シット・ダウン・ステイ」などと、聞いたことがあるような郡山弁の英語が聞こえてきて「言葉は通じるんだな」と思っていると、今度は日本語で「何しに来たの」と聞かれるから「A君は何処ですか」と聞き返すと、「只今、進路のガイダンス中」と言われ、「えっ、何それっ」と聞き返そうとして気がついたことがありました。ここが天国ならば先に来ているはずのH君やDちゃんやTちゃん、それにT君などの姿も見当たらないのです。それで「お友達のみんなはどこですか？」と恐る恐る聞いてみると「皆、生まれ変わって下界に戻っていったよ。亡くなった者が皆ここにいたら浄土が溢れかえってしまうだろう。特に最近はCO<sub>2</sub>の排出量の問題で、なるべく輪廻を早くしているのじゃよ」とこのように言われ、「みんな自分で進路は決められるのですか？」と重ねて聞くと「いや、自分勝手に決めることはできないが、前世で善行を成した者だけが自己推薦枠で希望通りの生物に生まれ変わることができるのじゃよ」とこのように答えるのです。「A君は家族や多くの友人・知人に慕われていて、皆に大いに潤いのある生活を与えてくれた功績によって自己推薦枠に入っている訳で、そういえばここに残ってその進路指導をしているのが一番先に来たH君ではなかったかな」と会話は続き、Dちゃん・Tちゃん・T君やその他の仲間についての消息は…以下、次号に続く。(M)